

適正在庫が知りたい

Q. 在庫ゼロが正しいとは思わない。それでは適正在庫とはどう考えればよいのか？

要旨 一般的に、調達、生産、販売の各現場部門では、在庫を多く持った方が業務を楽に回すことができるため、在庫量を減らす誘引が起きにくいものです。在庫を適正にするためには、適正な在庫量の考え方を明確にして在庫基準を設定し、経営者がリーダーシップを発揮して現場に守らせる必要があります。

解説

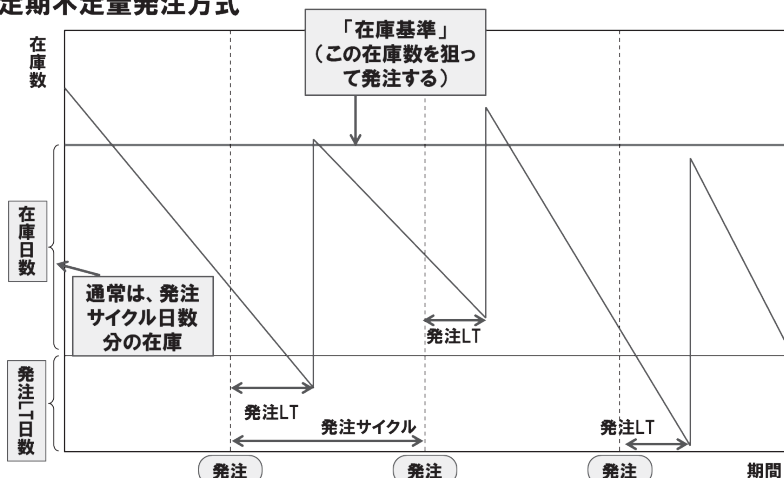
1. 需要に合わせた適切な在庫基準

製品（材料）在庫は生産（受入）されたら増加し、売れたら（消費されたら）減少するというように、量が上下します。在庫基準は、このうち狙うべき在庫の最大量です。在庫基準を数で設定してしまうと、需要が増えた時には在庫基準が過少に、需要が減った時には在庫基準が過多になってしまいます。そこで、在庫基準を“期間”で設定することで、需要に合わせて常に適切な在庫基準を保つことができるようになります（Q4 参照）。

2. 在庫基準の設定方法

定期的に発注する「定期不定量発注方式」のケースで、在庫基準設定の考え方を説明します。一度発注してから次の発注までの期間（発注サイクル）と、発注してから納入されるまでの期間（発注リードタイム）を合わせた期間に消費される在庫数が業務を回すために最低限必要な在庫数（流動在庫）です。これに不測の事態を想定した安全在庫を足して、在庫基準とします。

定期不定量発注方式



適正在庫の考え方

<ご提案のポイント>

- ・適正在庫の考え方を理解し、在庫保有量を適正化することができます。
- ・まずは、在庫を保有することによるメリット、デメリットを明確にします。
- ・在庫基準を"期間"で設定し、在庫基準を狙って在庫を保有するようにします。
- ・「流動在庫」、「安全在庫」、「死蔵在庫」に分類して在庫基準を設定します。

1. 適正在庫の意義

まずは、在庫を保有することによるメリット、デメリットを整理して、在庫を適正化する意義を確認します。製品在庫を保有することで、納期の短縮や欠品による販売機会ロスを減らし、売上が向上するメリットがあります。また、材料在庫を多く保有することは仕入れコストの低減や、製造ロットまとめによる製造コストの低減にもつながります。反面、在庫が多すぎると製品の陳腐化による価値の下落や、売れ残りにより製品が無駄になることがあります。また、在庫金額分のキャッシュが固定化することで、キャッシュフローの悪化につながります。

次に在庫基準を設定します。在庫基準とは、品目ごとに狙うべき在庫量のことです。この在庫基準を数量ではなく、期間（何日分、何カ月分）で設定します。こうすることで、需要の変動に合わせて柔軟に狙うべき在庫数を変動させていくことができます。

2. 保有在庫を分類して、在庫基準を設定する。

保有する在庫を、「流動在庫」、「安全在庫」、「死蔵在庫」に分類します。「流動在庫」は、通常の業務を回すうえで必要な在庫のことで、通常は生産（発注）リードタイムと生産（発注）サイクルをもとに設定します。

安全在庫は、需要の急増や災害等の不測の事態に対応するための在庫です。製品が欠品した時の社会的、経営的影響と在庫増のデメリットを考慮して設定します。

死蔵在庫は、今後消費される見込みの少ない在庫です。保有在庫のうち、前述の流動在庫と安全在庫を合わせた在庫より多く保有している在庫を指します。保有することで、在庫を保有することのデメリットが大きくなるため、売却か廃棄することを検討します。